

新年のご挨拶



一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会 会長 高島 元

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

情報通信産業の変革は、技術の進展とともに急速に進んでいます。スマートフォン、タブレット端末に代表される情報機器のみならず、今後はオープンでシームレスなグローバルクラウドサービスやビッグデータ、スマートシティなど新たな市場が急激に増加する可能性をもっています。一方で昨今の円高や雇用情勢の悪化の影響により景気の足踏みが続く中、総務省では平成25年度予算における重点施策「アクションプラン2013」において、「日本再生に向けたICT総合戦略（アクティブジャパンICT戦略）の推進」を掲げ、スマートコミュニティやビッグデータ時代にふさわしいネットワーク技術の確立と我が国の成長基盤であるICTの徹底的利活用等により、新市場・新産業の創出を目指しています。私ども通信建設業界としては、その活動を支えるため、これまで培ってきた情報通信建設分野での総合力を発揮して、社会生活や経済活動に不可欠な情報通信インフラの構築・整備・保守に取り組むことが重要となってきます。

このような環境下において、さまざまなプレーヤーによる競争が激化する中で、協会並びに会員会社としての命題である「技術力」「安全」「信頼」の観点でさらに競争力を強化し、自ら新しいビジネススタイルを生み出していく取り組みについて、いくつか具体的に述べたいと思います。

まずはビジネススタイルの変革についてです。ICT

を支える情報通信分野において、固定系ではFTTH基盤の全国展開がほぼ完了し、ホームICTなどのユーザーサービスの分野の充実・拡大に期待が高まっています。モバイル系はLTEへの移行も本格化し、今がピークとなっているところでは。通信システムもレガシー系からIP系へ変わったことで、使用される機器もシンプルになっています。このような変化に伴い、通信建設業界の業容にも変化が起こってくるのは自然の流れと言えます。すなわち、設備を建設して通信事業者様へお渡しするという建設・開通工事という枠組みの仕事からさらに幅を拡げて、設計から保守・運用までの技術力を高めて通信事業者様へご提案していくフルアウトソーシングというビジネススタイルへの変革の時期に来ていると思います。今後拡大傾向にあるこの分野のニーズに適切に応えるべく、引き続き通信事業者様へご提案しつつ取り組んでいきたいと思ひます。

このような活動を展開するに当たっての競争力の源泉としては、業務の効率化・生産性向上、エンジニアリング力の強化、施工の安全確保や品質向上、そして人材育成への取り組みが重要となると考えます。

業務の効率化や生産性向上、顧客サービス向上を目的とした施策の切り札としては、SCM（サプライ・チェーン・マネジメント）の定着化に向けて取り組んできています。一連のデータのフロースルー化を最大限活かした業務の仕組み作りや業務フローの全体最適化、またペーパーレス化の徹底などについて、まさに業界全体を挙げての運動とすることが重要と考えます。このためには協会及び会員各社は、通信事業者様

と連携を図り、身の回りの業務環境全体に対して常に課題意識を持ちながら業務のやり方について弛まない不断の見直しを行う必要があると思います。

エンジニアリング力の強化として主要な取り組みである光通信工事技能競技会は、時代に応じて必要となる技術力の業界全体でのレベル向上を目的として、原則毎年開催しています。一昨年は大震災の影響により開催を見合わせましたが、昨年は7月に「第7回光通信工事技能競技会」をパシフィコ横浜において開催し、来場者が1,700人にも及ぶ盛大な競技会となりました。設計から運用までの技術力及び工事品質、生産性の向上を図る一方、時代の要請に適合した光技術とメタル技術の複合競技を新設して、マルチスキル化に対する実践的な総合エンジニアリング力養成を目指した日頃の研鑽の成果を競いました。マルチスキル化はアクセス工事だけでなく宅内工事、さらには通信設備全般の保守技術にまでニーズが拡大し、総合的なスキルを持つ技術者の養成がますます重要であることから、今後企画・運営する競技にも反映していく予定です。今年は7月に名古屋での開催を予定しています。

また昨年11月には設計品質向上を目的として、アクセス設備設計・積算について、東西エリア合同での「第3回アクセスデザインコンテスト」を開催しました。設計段階における安全性確保に配慮した付加価値提案を含めた課題設定とすることで、安全意識の向上にも効果を上げるとともに、各社での創意工夫の共有化や切磋琢磨の場としても効果を上げています。

その他、日常業務から見出された創意工夫や改善をVE/VA活動として活性化し、水平展開するため「西日本ICTフォーラム」、「つくばフォーラム」への参加・展示を行い、また業務の見直しや工具・工法などの改善提案の優良事例を共有化し、さらなる改善につなげるためのSKY大会を各地域で開催しています。こうした取り組みを地道にかつ着実に進めることが、通信建設業界全体のさらなる技術力の底上げや生産性の向上に役立ち、トータルパワーの強化につながってくると思います。

一方、通建業界全体での事故の状況については決して減少したとは言えず、基本動作の欠如から重大事故

につながっているケースが少なからず発生している状況にあります。人身事故・設備事故を撲滅し、お客様に信頼していただけるよう、協会と会員会社で安全・品質向上を最優先課題として継続的に取り組んできています。具体的には、安全で高い品質の工事施工を確実に実行するため、協会横通しで、冊子「安全の鉄則」を共有するとともに、安全パトロール強化、ツールの配備、工法の改善、研修の徹底などの施策を実施してきました。安全は通信建設業界の要です。安全なくしての成果に意味はありません。引き続き、基本動作遵守の再徹底と情報通信エンジニアリングのプロ集団としてのさらなる安全と施工技術並びに品質の向上を目指して日々研鑽に励みたいと思います。

以上、掲げたような活動を支える人材育成については、会員各社と協会が連携して取り組んでいます。協会の研修センターでは、時代の進展にあわせた新サービス・新技術の研修コース新設、安全意識の徹底に関する研修の強化、保守業務等の拡大に向けた研修メニューの充実等、通信建設業界の総合力向上に向けたラインアップを整えるとともに、グローバル時代に対応し、アジア新興国を対象とした研修についても取り組みを始めているところです。今後はさらに、電気通信事業法における工事担任者資格や建設業法における監理技術者等の法的に重要な資格の取得対策を強化し、業界としてのポジショニングを高めていきます。

情報通信エンジニアリング協会は、昨年4月に、国の公益法人制度改革に伴い、「一般社団法人」として新たにスタートしました。技術の進展がめざましく、社会・経済情勢が急激に変化する中で、当協会は会員各社とともに、通信建設業界の原点に立ち返り、足元を固めながら、新たなビジネス領域の開拓にチャレンジし、通信事業者様等の継続的なバリューパートナーとして信頼され続けるよう、努めていきたいと思っています。

最後に会員各社並びに関係各位のますますのご発展を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。